

明るい未来をひらく六ツ美中部の子の育成

ICTを活用したふるさと学習・ESDの推進

学校名 岡崎市立六ツ美中部小学校

所在地 〒444-0244
愛知県岡崎市下青野町井戸尻71

ホームページ
アドレス <http://cms.oklab.ed.jp/el/chubu/>

1. 研究の背景

本校は校訓「誠」の精神を支柱に、「いつもにこにこ元気な子」をスローガンに掲げて、次のようなめざすべき児童像をもって教育目標としている。①べんきょうがだいすきな子(確かな学力)②うんどうがだいすきな子(健やかな体)③ちゅうぶがだいすきな子(ふるさとを愛する心)

以上の教育目標の下、平成14年からは、特に③ちゅうぶがだいすきな子、ふるさとを愛する心を育成したいと考え、生活、総合の時間を「なのはなタイム」とし、地域の人、もの、ことと関わった実践をし、研究を進めてきた。

そして、東日本大震災を契機に「地域社会の絆」「地域と学校との関わり」「地域の人との関わり」「地域の環境」等が大切なことに改めて気づかされた。そこで持続可能な社会の発展、ESDの視点を入れ、環境学習を基盤にして様々な関係性を学習することによって持続可能な地域社会の担い手＝確かな知識と実践力(生きる力)をもった児童＝よりよい地域(ふるさと)の未来をひらく児童(未来の大人)の育成を図っていきたいと考え、研究課題を以下のように設定した。

そして、その際、ICTを効果的に活用し、ふるさと学習・ESDを推進したいと考えた。

2. 研究の目的

本校のふるさと学習(地域学習)の活動は主に以下の3つである

- ① ふるさと六ツ美中部から学ぶ活動・・・ふるさとの自然、歴史、生活、お祭りなどの学習
- ② ふるさとの名人から学ぶ活動・・・米作り、野菜作りなど地域の方、NPOの方から学ぶ活動
- ③ 地域の方と交流の輪を広げる活動・・・地域の高齢者、老人福祉施設、保育園と交流する活動

平成25年度はふるさと学習(地域学習)の発展、深化を目指し、視聴覚・情報通信機器(ICT)を活用して、子供たちが生活・総合・社会・理科・特別活動等の時間に調査・観察した記録と活動を子供とともにデジタルコンテンツにし、学習の場で役立てたいと考えた。ふるさとの大河である矢作川周辺の植物・生物や緑豊かな学区にある田畑での米作り、ニンジン作り、ナス栽培などの体験、観察、調査してきたことをデジタル化したいと思った。また、地域の方とともに長年継続して活動している学区の川、用水の美化活動や学区の自然に親しむ会(コスモスウォーキング)等をデジタル化できたらと考えた。そして、2,3学期に有識者や保護者・地域の方を招いて、子供たちが発見した学区の自然や自然の恵みの素晴らしさや保護することの大切さを伝える会を開きたいと考えた。

3. 研究の方法

(1) 明るい未来をひらくとは

持続可能な社会の発展の担い手として明るい未来をひらく子供を育成するためには、児童の発達段階に即した考え方が必要である。また、家庭や地域の人に自分から働きかけ、協働で課題を解決できるような活動を進めることが重要である。

そこで、下記の表のように、低学年に於いては、自分とかかわりがあることの“今”を調べることに重点を置き、高学年になるにつれて“今を調べ、未来を考える”ようにしたい。課題を解決する経験は、未来に対して責任のある生き方のできる子供を育てていくであろう。

	低学年	中学年	高学年
今→ 未来	←	未来について関心をもつ 今（現状）を調べ	未来を考える →
地域の 範囲	自分の身のまわりのことを地域の方と関わって調べたり、実践する。	自分の地域（学区）のことを人と関わって、マップにし、学区全体の将来（未来）について関心をもつ。	自分の地域（学区）の環境を人、産業と関わって考え、将来（未来）について考える。
具 体的 な 場 所 内 容 等	野菜作り さつまいも作り 米作り 保育園との交流 お年寄りとの交流	校内の生き物 夢中池 今と昔の学区 川 用水 ごみ まちのよさ	水生生物 生き物のつながり 工場 農家 CO2削減 節電 地球温暖化 生活環境の改善 明るい中部の未来

(2) 研究の仮説と手立て(つながり、かかわりがキーワード)

仮説1（教材、教科とのつながり、かかわり）

- ・ ESDの視点から再編成した教育課程をもとに、環境学習を中心とした生活、総合的な学習、社会科、理科、道徳教育等を実践すれば、地域の方と共によりよい生活を考え、築こうとする子供を育成できるであろう。

手立て1

- ・ 「ESDカレンダー」を各学年ごとに作成し、ESDの視点から教育課程を再編成する。
- ・ ESDチェックシートの作成
- ・ 六ツ美中部学区の特色を生かした学習プログラムを展開する。（年間計画）

仮説2（考え、思いのつながり、かかわり）

- ・ 多様な言語活動を展開し、人とのコミュニケーション能力や表現力を磨くことで、自分の考え、思いを豊かに表現・発信できる子供を育成できるであろう。

手立て2

- ・ 多様な考え方や表現方法のあることに気付かせ、授業においてはペアやグループなどでの話し合い活動を重視して、人の考え方を尊重し共に学ぶ学習環境をつくる。
話し合いの場の設定→なのはなタイム
- ・ 感想、レポート、発表などの表現活動の機会を用意する。
（ICTを活用し発表活動を効果的に行う）

仮説3（地域とのつながり、かかわり）

- ・ 六ツ美中部の自然や人・もの・ことに体験的に学ぶことによって、その価値と人々の思いに気付く、ふるさとを愛し誇りに思う気持ちが育つであろう。

手立て3

- ・ 地域、家庭とも連携し、積極的に地域教材を開発して地域の環境や文化に触れる体験的な活動の場を用意する。
- ・ 地域講師の方から学ぶ活動を取り入れる。
- ・ 地域の自然・社会的環境をデジタルカメラ、ビデオ等で教材化する。

4. 研究の内容・経過

(1) 手立ての詳細 年間の計画の作成と観察・記録の視点の明確化

今まで行事や活動中心の学習であったので保護者、地域の方、有識者への公開授業をめざして生活、総合的な学習、社会、理科、特別活動等のねらいに即した年間計画や記録の視点をまず作成した。

年間計画の作成の視点

- ・課題設定→課題追究→追究したことの深め合い、まとめ→発信
- ・子供の関心の高まりや課題に対する意識の深まり

観察・記録の視点

- ・視点を定めた観察記録の作成（観察の視点、具体的な数字、視点に合った絵や文）
- ・子供の思い、考えが入った記録（教師の朱書き）
- ・観察記録の累積

(2) 2年 「おいしいなつやさいをそだてよう」の実践（ICTを効果的に使って）

夏野菜を観察し、その成長の変化に気付いたり、絵や文で記録したりできる。

教材、教科とのつながり、かかわり

前学年でのアサガオやさつまいもの栽培経験を生かして、一人一鉢夏野菜を栽培する活動に取り組みさせた。その際、国語科単元「よく見て書こう」で学んだ観察カードの書き方を生かして、苗の成長を観察させたり、デジカメで撮影し記録したり、算数科単元「長さ」で学んだものさしの測り方を生かして、草丈や葉の長さを測らせた。このように日々観察することにより、野菜の成長の変化に気付かせた。

考え、思いのつながり、かかわり

5種類の夏野菜の成長の仕方の類似点や相違点について考えたり、夏野菜を育てる上での共通した課題について苗の成長をデジカメで記録した写真を活用して話し合わせた。



(3) 全学級公開 市教育委員会の研究委嘱

発表会 11月22日（金）

全体会

研究テーマ「明るい未来をひらく六ツ美中部の子の育成」に即して、6年生の児童代表が、生活、総合、特別活動の時間に取り組んだこと、学習したことを写真、ビデオ等を活用して410人程の研究会参加者の前で発表することができた。

参観者からは、下記のように好評であった。

- ・全体会で今まで環境・ESD 関係で取り組んできた活動を ICT 機器を活用して6年の児童が紹介していたが主体的な取り組みとしてよかった。



公開授業 1年 ぼく・わたしははたけめいじん—サツマイモ栽培を通して—

自分や仲間の方で、保育園の子のことを考えた交流やサツマイモの栽培ができるようになったことに気付くことができる。

4月に1年生の子供たちは保育園から「たまねぎほり」「カレーライスパーティー」の招待を受け、交流を楽しんだ。その後、保育園の子へのお返しとして自分たちで作ったサツマイモで「おいもパーティー」を開きたいという考えが出てきた。そこで、保育園の子の招待を最終目的に設定し、一人一区画ずつ畑を与え、責任をもって自分のサツマイモの世話ができるようにした。自分たちには何ができるのか、話し合った。

話し合いをする際、園児と1対1のペアになった交流活動の様子を液晶テレビに映して、振り返らせ、話し合いの意欲を高めたため、話し合いが活発に行われた。



活動内容の体育館掲示



研究発表会での参観者の意見

- ・年間を通した息の長い活動に感心しました。子供の発言の中にも背景には多くの学びの成果があったと思います。
- ・情報機器を子供が授業の中で活用していて分かりやすかった。
- ・教室環境や体育館の掲示物を見ると長い時間をかけて取り組んできたことがよく分かりました。

5. 研究の成果

1月30日に保護者、地域の方、有識者を招いての生活・総合の発表会として「ちゅうぶだいすきデー」を実施し、子供たちが機器を活用したり、資料を作成したりして、1年間の取り組みを発表した。多くの方から、子供たちの意欲的な活動、取り組みを評価していただいた。



6. 今後の課題・展望

成果としては、ふるさと六ツ美中部を観察・記録したコンテンツが多く集まったことと子供たちがデジタルカメラや実物投影機などの機器に慣れたことである。そしてふるさと六ツ美中部のよさを発信する機会にも何度か恵まれたことである。さらに、授業で得た学びをESDの視点に立ち、意識を継続させ、具体的な活動をふるさとのためにすることである。

7. おわりに

今回、助成していただいて、液晶テレビや実物投影機、ビデオカメラ、大型プリンター等を購入でき、研究発表会(11月22日)をはじめとして、多くの場で教育的効果を発揮することができた。